

膝前十字靭帯損傷の治療戦略

黒田 良祐 (くろだりょうすけ)

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 整形外科学

前十字靭帯再建手術の成績は概ね良好との報告が多いが、近年の systemic review では、手術後になんらかのスポーツへ復帰する率が82%、全く元と同じレベルの活動性を獲得できるのは63%、と決して高くない。またトップアスリートの復帰率は50%を下回るとの報告もある。手術後成績に関しては、再建手術例の約20%がpivot-shift test 陽性であり、さらにpivot-shift test は術後の膝機能や早期変形性膝関節症の発生と密接に関連すると報告されている。膝前十字靭帯損傷の治療において術後の確実なスポーツ復帰、変形性膝関節症発症の防止は極めて重要である。そのためには、1. 前十字靭帯の解剖をよく理解して解剖学的な再建を行うこと、2. 適切なタイミングで治療すること、3. 半月板損傷、関節軟骨損傷、その他の靭帯損傷などの合併損傷を含めてその病態を把握し、個々の症例に対応して治療すること、などが重要である。本講演では膝前十字靭帯損傷の治療に関する最新の知見を紹介するとともに、我々の行っている治療法を紹介する。